

国立民族学博物館友の会 2020年度催しのご案内

■大阪 毎月第1土曜日/第5セミナー室 ※5月のみ変更あり

4/4 (土)【P3参照】

特別展「先住民の宝」関連

トーテムポール——カナダ北西海岸先住民の宝

講師：岸上 伸啓(人間文化研究機構理事、民博教授)

5/9 (土) 会場：民博講堂【P3参照】

第500回友の会講演会 梅棹忠夫生誕100年記念対談

知的生産のフロンティアの原点——探検家 梅棹忠夫を語る

話者：石毛 直道(民博第3代館長)×吉田 憲司(民博第6代現館長)

ファシリテーター：飯田 卓(民博教授)

6/6 (土)

第84回体験セミナー関連

アヌココロ アイヌ イコロマケナル

——新国立博物館の挑戦

講師：佐々木 史郎(国立アイヌ民族博物館設立準備室主幹、

国立文化財機構東京国立博物館付部長)

7/4 (土) 講師：上羽 陽子(民博准教授)

8/1 (土) 『季刊民族学』173号 土方久功生誕120年記念

特集「土方久功と中島敦、パラオの日々(仮)」関連

9/5 (土) 講師：横山 廣子(民博名誉教授)

■東京

4/29 (水・祝) 会場：モンベル御徒町店【P3参照】

アンデス高地の教会に集う人びとと祭りのすがた

講師：八木 百合子(民博助教)

6/13 (土) 会場：モンベル御徒町店【5月募集開始予定】

第95回民族学研修の旅関連

出会いの堆積としてのスワヒリ世界、その歴史と文化

講師：鈴木 英明(民博助教)

※友の会講演会は会員以外の方も資料代500円でご参加いただけます。

5/9の参加要項は改めてご案内いたします。

※下半期の予定は追ってご案内いたします。

■体験セミナー

講師同行企画！国内で文化や慣習に親しむ現場体験型のプログラムです。

上半期に1回、下半期に2回予定しています。上半期は'70年万博50周年を記念して、万博記念公園内の施設を見学するセミナーを計画しています。下半期の1回は、4/24に開館する国立アイヌ民族博物館を訪問する旅を10月～11月頃に計画しています(5月～7月募集開始予定)。

■民族学研修の旅

講師同行企画！研究者の調査地を訪ねる海外研修の旅です。

秋頃開催予定【5月募集開始予定】

第95回

インド洋交易の拠点、ザンジバル島とキルワ島を歩く

〈訪問先：タンザニア〉

講師：鈴木 英明(民博助教)

下半期はメキシコのアルテ・ポプラル(造形表現)をめぐる旅を2021年2～3月頃に計画しています(9月募集開始予定)。

プログラムは変更する可能性があります。

その都度、「友の会ニュース」「月刊みんぱく」などでご案内します。

する意識が芽生え、先住民を名乗る人が増えました。

国際的に共通する「先住民」の定義はありません。国が認定している先住民民族もあれば、国が認定していない先住民の人たちもいます。マレーシアの例をあげると、マレー人やオラン・アスリなどが「先住民」とされていて、インド系や中国系の人びとは、「先住民」とはされていません。ただし、「先住民」のなかでも多数派のマレー系の人に対する優遇が優先されており、後回しにされる「本来の先住民」オラン・アスリは不満を感じています。誰が先住民であるのかは、場合によっては、政治的な問題にもなりえます。

——タイトルに「宝」をつけたのはなぜですか。

彼らの経験してきた差別の歴史は、いまなお深刻な問題であることも確かです。とはいえ、重い雰囲気、難しいイメージだけで先住民を捉えてほしくないと思いい、親しみやすい切り口で先住民を知ってもらうために「宝」をテーマに掲げました。「宝」とは、家族や親族信仰や生活の道具、自然環境といったこともあるでしょう。民族としての誇りや心の拠りどころ、それも「宝」です。

展示をとおして、まずは彼らが育んできた営みを知ってもらい、先住民の思



展示とあわせてご覧ください

『季刊民族学』171号
特集「先住民のいま」

特別展で紹介している先住民のアイデンティティ表現、その政治的・社会的背景としての権利回復運動や芸術復興運動を掘り下げて解説しています。

いや彼らの希望を私たちの「宝」と照らしあわせて考えてみてほしいです。

みんぱくコレクション 展示のご案内

兵庫県立歴史博物館 特別展

驚異と怪異——モンスターたちは告げる——

会期：2020年4月25日(土)～6月14日(日)

好評を博したみんぱく2019年秋の特別展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」。その資料がコンセプトもあらたに兵庫県姫路市で展示されます。みんぱく友の会会員のみなきまは割引価格で見学いただけます。



開館時間：10時～17時(入館は16:30)

休館日：月曜日(5/4は開館)

観覧料：会員は大人800円 大学生550円

(通常料金：大人1,000円、大学生700円、高校生以下無料)

主催：兵庫県立歴史博物館、神戸新聞社、国立民族学博物館、千里文化財団

兵庫県立歴史博物館 <https://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihak-bo/>

イベントスケジュール

■特別展「先住民の宝」

3/19(木)～6/2(火)

■コレクション展示「朝枝利男の見たガラパゴス — 1930年代の博物学調査と展示」

開催中～3/24(火)

■梅棹忠夫生誕100年記念企画展「知的生産のフロンティア」

4/23(木)～6/23(火)

●友の会講演会

3/7(土) 林敦男 4/4(土) 岸上伸啓

●みんぱくゼミナール

3/21(土) 河合洋尚

4/18(土) 北原モコットウナシ、齋藤玲子

●みんぱくウィークエンド・サロン

3/1(日) 丹羽典生 3/8(日) 伊藤敦規

3/22(日) 久保正敏 3/29(日) 鈴木紀

4/5(日) 庄司博史 4/12(日) 南真木人

4/19(日) 野林厚志 4/26(日) 池谷和信

●その他の催し

3/20(金・祝) 研究公演「絆——人をつなぐ太鼓」

3/28(土)、3/29(日) 特別展関連ワークショップ「アイヌの矢作りと模擬狩猟体験」

4/4(土) 特別展関連ワークショップ「ボードゲームで学ぶ・考える 北極域の環境変化と人」

4/6(月)、4/7(火) みんぱく春の遠足・校外学習事前見学&ガイダンス

【館外での開催】

●4/29(水・祝) 東京講演会 八木百合子

◆都合によりスケジュールが変更になる場合があります。

◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

会員による会員のための学習機会

みんぱく友の会雑学サロン

3/21(土) 雑学☆発表会「親音霊場巡拝のみち②長谷寺」

4/18(土) 雑学☆発表会「大阪府下の市町村名の由来」

日時：第3土曜日 15:30～16:30

申込不要

場所：第7セミナー室(3月)

会場にて友の会会員証、フリーパスをご提示ください。

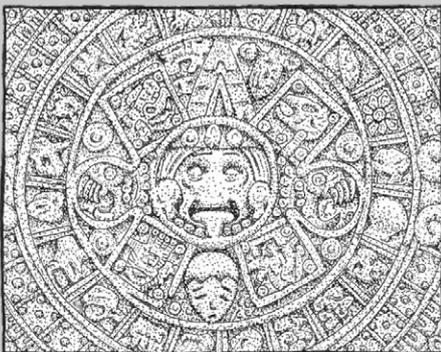
第3セミナー室(4月)

問い合わせ先：田和、谷北、山本(実行委員)

zatsugakusalon@gmail.com

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



二月十五日(土)
 アステカノ
 曆石デス。
 大キイノデ、
 近ヅクト、僕
 毛彫刻ノ一
 部ニナッテシ
 マイソウデス。

重要なお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、催し物について、本紙掲載の情報も含め、急遽、予定を変更する可能性があります。詳細につきましては、決まり次第、みんぱくならびに友の会のホームページに掲載いたします。何卒ご理解のほど、お願い申し上げます。

※友の会会員 無料(会員証提示) 一般5,000円
 ※講演会終了後、特別展の見学をおこないます(40分/要会
 員証もしくは特別展示観覧券)。

北アメリカ北西海岸地域にある先住民の村々には、動物や人間などの姿を彫りこんだ巨大な木柱が、多数立てられています。それらはトーテムポールとよばれ、現在、ハイダやクワクワカワクワなど各民族の宝であり、象徴です。トーテムポールとは何か、その歴史の変遷、現在の制作状況とそれに関連するポトラッチ儀礼について解説します。また一九七二年、そして二〇二〇年に立てられる、みんぱくの新旧二本のトーテムポールの制作についても紹介いたします。

【特別展「先住民の宝」関連】
トーテムポール
 —カナダ北西海岸先住民の宝—
 講師：岸上伸啓(人間文化研究機構理事、民博教授)
 日時：4月4日(土) 13時30分～14時40分
 会場：本館2階第5セミナー室(当日先着96名)

友の会講演会 告知

■第499回

記念対談！ 友の会講演会は500回を迎えます！

■第500回

【梅棹忠夫生誕100年記念対談】 知的生産のフロンティアの原点 探検家 梅棹忠夫を語る

話者：石毛直道(民博第3代館長)
 吉田 憲司(民博第6代現館長)
 フシリテーター：飯田 卓(民博教授)
 日時：5月9日(土) 13時30分～15時00分
 会場：本館2階講堂(当日先着450名)

国立民族学博物館初代館長 梅棹忠夫は、知的生産的活動において常に新領域を開拓し続けました。知的生産のフロンティアを歩きつづけた梅棹忠夫ですが、研究の根は山からはじまり、その原点は探検にあると述べています。本講演では、探検家としての梅棹忠夫に焦点を当て、石毛直道第三代館長と吉田憲司第六代現館長の対談をとおしてその思想の源をさぐります。

※記念対談は定例の友の会講演会とは開催週、時間、会場を変更して実施します。
 ※参加要項はあらためてご案内します。

東京講演会 募集

■第129回東京講演会

アンデス高地の教会に集う 人びとと祭りのすがた

講師：八木百合子(民博助教)
 日時：4月29日(水・祝) 13時30分～14時40分
 会場：モンペル御徒町店4Fサロン(要事前申込) 先着60名
 東京都台東区上野3-22-6 コムテラス御徒町

南米ペルーの山岳地帯には、キリストや聖母を祀る数々の聖地が存在します。祭典の時期には、聖地の教会をめざして大勢の人が集まり、さまざまな祭礼行事がおこなわれます。聖地の名声が高まり、巡礼者の数が増えるにつれて、祭りの様相やそのあり方も大きく変化してきました。本講演では、祭礼を支える仕組みを紐解きながら、現代のアンデスの祭りのすがたについて紹介します。

※友の会会員・モンペル会員 無料(会員証提示) 一般5,000円
 ※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

お電話、FAX、受付フォームにてお申込みください。
 実施1週間前までに参加証をお送りします。



割引になります！

3月22日(日)
 阪急生活楽校(大阪)

友の会会員のみなさまは、右記映画鑑賞が割引になります！

阪急シネマテーク「男と女」デジタル・リマスター版

日時：3月22日(日) ①13時～ ②16時～
 ※上映時間104分。上映開始30分前から入場。

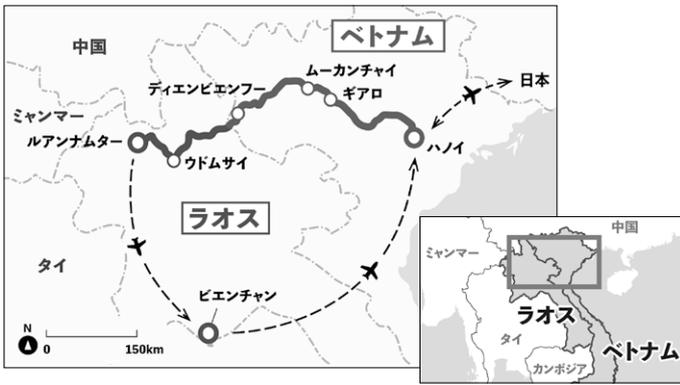
会場：阪急うめだ本店 9階 阪急うめだホール

★当日会員証のご提示でご本人様にかぎり割引になります。
 1,300円(維持会員、正会員、家族会員、ミュージアム会員適用。通常1,500円)

ひと、もの、くにのはじまりを探して 陸路で行く ベトナム・ラオス

講師：樫永 真佐夫（民博教授）

期間：2019年11月22日（金）～12月2日（月）



展望台に夫婦で遊びに来ていたモンの女性。モンは山間部に居住する。②



講師調査村にある小学校。黒タイの生徒に対して、授業はベトナム語のみでおこなわれる。⑥



講師調査村の農作業風景。美しくのどかなこの景観も村に残り農業を営む若者がいるからこそ。⑤

ベトナムとラオスは両国ともに国土の七割を山地が占め、平地部には多数民族が、山間部には少数民族が多く暮らしています。第九四回民族学研修の旅では、ベトナムの首都ハノイからディエンビエンフー經由国境を越え、ラオスの北部に位置するルアンナムターをめざしました。

両国の北部山間部を陸路で移動する旅では、文化、言語が異なる民族が混交する暮らし、国や民族の歴史などを見聞き、この地域の多元性を肌で感じることができました。現地はいま、急激な変化のときを迎えているといえます。のどかに見える地方でも都市部との格差問題は深刻で、少子化と高学歴化が進むなか、若者は都市へ流出し、多数者へと好んで同化していく状況がありました。一方で、村を歩き、地域の産物を生かした料理や現地地で培われてきた手仕事に出会い、掘りどころとなるような伝承に耳を傾けた体験は、時を重ねて育まれてきた人びとの営みの奥深さに触れる機会となりました。

参加者の記録とともに旅の様子を報告します。

【行程】

■11月22日（金）

出国。ベトナムの首都ハノイへ。『ベトナムの風に吹かれて』の著者小松みゆきさんと夕食をともにする。

■11月23日（土）

終日ハノイ市内を見学。植民地時代にはベトナム人政治犯がフランス撤退後はベトナム政府によって米軍捕虜が収容されたホアロー収容所、歴代ベトナム王朝が繰り返し城を構えたタンロン遺跡を見学。午後、ベトナム五四の民族を紹介するベトナム民族学博物館へ。民族の分布や各々の暮らしを俯瞰して知ることができた。夕方、水上人形劇を鑑賞。在住日本人研究者の方に終日同行いただき、中華世界と密接な関係にあった古代ベトナムについても理解を深めた。写真①

■11月24日（日）

ベトナムの多数民族キンの伝統的な集落景観が維持されているドウオンラム村へ。中国の支配から北部ベトナムを独立に導いたゴ・グエンはこの村の出身。彼を祀る神社や三〇〇近い木造仏を安置するミア寺を見学。午後、ベトナム人の伝説上の始祖フン王を祀る廟に立ち寄ったのち山間部へと車を進める。以降は少数民族が多く暮らす地域。この日は黒タイの故地ギアロをめざす。ギアロでは黒タイ知識人のお宅で家庭料理と踊りのもてなしを受けた。

■11月25日（月）

午前、黒タイ知識人の案内でギアロ盆地を見学。盆地内には黒タイの伝承地や儀礼空間が点在する。黒タイの故人の魂はすべて、ギアロのある山の頂から天に昇ると考えられている。その山に向かって水牛供儀がおこなわれる聖なる森に足を運び、黒タイの伝承や儀礼の継承について話を聞いた。黒タイの英雄を祀った廟を見学後、モンの美しい棚田が連なるムーカンチャイへ移動。写真②③④

■11月26日（火）

モンの村に立ち寄ったあと、講師の調査地である黒タイの村をめざした。道中、黒タイの結婚式を見学できた。講師の調査地ではご家族とお茶をともにする。黒タイの高床式の家の屋内は、一番奥がご先祖さまを祀る空間でその隣が家長夫婦の寝床、と空間的配置に決まりがあるようだ。村では、道ゆく人が講師に「マサオ！」と声をかける。研究者が信頼関係を築きながら調査を続けてきた様子をうかがい知ることができた。その後、ラオスの多数民族ラオの始祖が生まれたとされる土地を遠望し、ベトナム独立戦争の舞台ディエンビエン



機を織る黒タイの女性。養蚕や糸紡ぎをしたり、タケノコを干すのも床下。高床式住居の下は作業場だ。①



店番をしながら刺繍の練習をするモンの少女たち。⑩



黒タイの女性。頭頂部で髪を結うのは既婚女性の証。⑦



ビエンチャンの托鉢風景。⑫



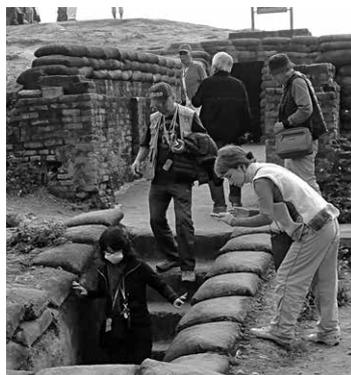
伝統的に手縫いのプリーツスカートを着用してきたモンの女性。最近ではモンの伝統的な図柄がプリントされた市販品のプリーツスカートを着用。⑧



ベトナム民族学博物館。2階はフロア全体が各地の少数民族の文化を紹介する展示になっている。①



水牛供犠をおこなう聖なる森で、黒タイ知識人の話を聞く講師。水牛の魂は田植えの時期に地上に帰ってくる。③



ベトナム独立戦争でフランス軍が最後まで立て籠もったディエンビエンフーのA1の丘。⑨



スケールの大きな棚田。美しい景観は限られた土地で農業を営む少数民族の労働の痕跡。④

■写真
佐藤善秀さん、中坪功雄さん、事務局(他たくさんの方から写真や動画をいただきました)

参加者の感想

少数民族についての知識は、何も知らなかったのが興味湧きました。ギア口盆地、歴史、精霊信仰、ももとの政治形態、現在の状況など断片をのぞいただけでも、もっと知りたいと思える旅でした。樫永先生ありがとうございました。これから関連して読む本が確実に増えます。

(書上清子さん)

「村の農業がいつまでも続くとは思えません。十分な学校教育が受けられなかった若者が、村に残って働いていたからこその見られるものなのです」ベトナムでは現在、少数民族も小学校でベトナム語を学んでいる。懐かしい風景の奥に隠された社会構造にまで眼の行き届いた講師のことが印象的だった。

(綿引弘文さん)

フーへ。写真⑤⑥⑦⑧

11月27日(水)

市内の戦争遺構を見学したのち出入国管理事務所へ。陸路国境越えてラオスへ入国。エコツアーが盛んなラオス。北部山間部の行程は、講師知人の黒タイのコンダクターに案内してもらった。写真⑨

11月28日(木)

朝、ウドムサイ県博物館とプーアート寺院を見学。ラオス山間部では道路沿いに露店をよく見かける。店番をしながら刺繍の練習をするモンの少女の姿もあった。途中、黒タイの村に立ち寄り。綿づくりから染織に至る全工程をひとつの村で見ることができた。高床式住居の床下が作業場。夕食後、ナイトマーケットを散策。写真⑩⑪

11月29日(金)

終日、ルアンナムター近郊の少数民族の村を訪ねる。刺繍や藍染めを得意とするレンテンの村では、発酵した竹を漉いてつくる紙と染織の工程を見せられた。モンの村では焼畑に代わったゴム林での採集と伝統的な土間の住居を、タイ・ルーの村では乾期の野菜栽培を見学。最後にアカの村へ。外部との接触を好まなかったアカの村は川を隔てた対岸にあった。村には米の神さまを祀った祠があり、村の出入口には星型に竹を編んだ魔除けがかけられている。少女たちが正月祭りで披露する踊りの練習をしていた。夕食はユアンの家庭料理。祈祷と踊りで歓待してもらった。

11月30日(土)

ルアンナムター近郊の民族を紹介する博物館を見学後、赤タイが運営するハンディクラフトセンターへ。染織や竹細工の製作を見学。周辺の田んぼは米の収穫期。機械に頼らず家族ぐるみで農作業をする様子があちらこちらで見られた。昼食後、空路ラオスの首都ビエンチャンに移動。夜、メコン川沿いのナイトマーケットを散策。

12月1日(日)

早朝、希望者のみ托鉢を見学。国民の九割が上座部仏教を信仰するラオス。ベトナムでは見られない光景である。朝食後、ラオスの象徴的な仏塔ター・ルアン、ラオス繊維博物館を見学。貨幣経済化が進む前につくられた古布に、手仕事の力強さ、その製作に時間を費やした人びとの暮らしのあり方や思いを感じることができた。写真⑫

12月2日(月)

帰国。

■第495回■2019年12月7日(土)
「みんなく名誉教授シリーズ」

聖なるもの 俗なるもの

立川 武蔵 (民博名誉教授)

宗教現象と思われるものはじつにさまざまですが、それらの現象のなかに共通した構造が見られるはずで、今回の講演では、その共通の構造についてお話ししました。

その「共通の構造」のキーワードは「聖なるもの」です。神・仏や救いは、畏敬すべきもの、清らかなものというような意味で「聖なるもの」とよぶことができます。遺体、亡霊、鬼神なども恐ろしきもの、畏敬すべきものという意味で「聖なるもの」です。「俗なるもの」も重要な概念であり、「聖なるもの」と対をなします。人間(凡夫)、迷いなどは神・仏や救いなどの対極にある「俗なるもの」です。また葬儀や初詣がないときは日常生活という意味で「俗なる」時間とよぶことができます。

宗教行為のなかには、葬儀のような「集団的宗教行為」とヨーガのような「個人的宗教行為」の二種があります。この二種は時には合体します。個人的宗教行為にあつては迷いは俗なる「不浄なるもの」であり、神・仏は聖なる「浄なるもの」です。一方、集団的宗教行為にあつては日常



遺灰を海に流す儀礼(ムムクル)。サヌール海岸、バリ

は「俗なるもの」です。しかし、葬儀などの非日常の場合は「聖なる」時であり、例えば遺体が「不浄なるもの」から「浄なるもの」に移行するのは「聖なる」時間のなかで見られます。

このように「聖なるもの」を広くとらえるならば、今日のさまざまな宗教問題にたいしてまた別の角度から考えることができるのではないかと思います。

■第496回■1月11日(土)

中国に生きるムスリムたち

奈良 雅史 (民博准教授)

中国には、二〇〇〇万人以上のムスリムが暮らしています。本講演では、その半数以上を占める回族とよばれる少数民族を取りあげ、彼らの歴史とその文化を紹介するとともに、現代中国で彼らがいかにイスラームを実践してきたのかを考えました。

回族はおもに唐の時代から元の時代にかけて中国にやって来た外来ムスリムとイスラームに改宗した漢人との通婚の繰り返しによって形成された民族集団とされています。回族は、特権的な外国人ムスリムから、中国文化の影響を受けた中国ムスリム、さらには中国共産党の民族政策

下で少数民族へと、時代ごとにその立場を大きく変えながら、非ムスリムと隣り合って中国社会を生きてきました。

しかし、改革開放政策の導入以降、回族は一層の生きにくさを抱えることとなりました。文革期よりは緩和されたものの、依然として抑圧的な宗教政策が採られるなか、グロバリに展開するイスラーム復興の影響によってより厳格なイスラーム実践が求められるようになったためです。



雲南省における伝統的なモスク。

こうした状況下、わたしが調査をおこなってきた雲南省昆明市では、回族は宗教教育を恋愛講座という名目にするなど、宗教管理制度のグレーゾーンを見いだしながら、彼らの望む宗教活動を実施してきました。こうした政府との直接的な対立を躲(か)しながら実践される宗教活動の事例における民族的・宗教的マイノリティとしての回族のあり方を考察しました。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。
国立民族学博物館友の会
一般財団法人 千里文化財団

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)
電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)
FAX：06-6878-3716
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



提携施設のご利用に関するお知らせ

*2020年4月より、友の会会員対象に万博記念公園施設の「EXPO'70 パビリオン」「自然文化園・日本庭園」の観覧料金の割引適用がスタートします。

*ホテル阪急エキスポパークが営業終了します。
2020年2月29日(土)をもって終了するため割引適用がなくなります。

*休館していた提携館(割引適用)が再開します。
・島根県立古代出雲歴史博物館:2020年4月24日(金)より
・サントリー美術館:2020年5月13日(水)より

※提携施設をご利用の際はみんなく友の会会員証をご提示ください。